教育資料１

令和６年　第４回定例会　文教警察委員会　説明資料

１　教職員の懲戒処分について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１

２　債務負担行為の設定について（県立学校校舎建設工事請負契約）・・・・・・・・・・・・・・・・　２

３　県立歴史館外部プロデュース企画「なぜ恋してしまうのか？展」の開催について・・・・・・・・　３

４　令和６年度「いばらき教育の日・教育月間」の推進について　・・・・・・・・・・・・・・・・・　４

５　旧白浜少年自然の家の民間譲渡に係る再公募等について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５

６　里美野外活動センター建物等の民間譲渡について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７

７　令和５年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の
諸課題に関する調査(茨城県)　・・・・・・・・・　８

８　令和７年度採用県立高等学校等における校長の公募選考の結果について　・・・・・・・・・・・・　11

令和６年 12 月 10 日
教　　育　　庁

茨城県教育委員会
Ibaraki Prefectural Board of Education

教育庁学校教育部義務教育課・高校教育課・特別支援教育課

1　教職員の懲戒処分について

不祥事の内容	対象職員	処分内容		処分年月日
		対象職員	管理監督者	
学校徴収金の紛失等	県南地域・小学校 係長 [redacted]	停職12月	減給(1/10) ３月	R6.9.26
	教頭（事故当時）２名	減給(1/10) １月		
親睦会費等の着服	県南地域・県立学校 主事 [redacted]	停職６月	戒告	R6.9.26
交通事故 （事故相手：死亡）	古河市内・小学校 養護教諭 [redacted]	減給(1/10) ３月	なし	R6.10.25
交通事故 （事故相手：死亡）	水戸市内・県立特別支援学校 教諭 [redacted]	減給(1/10) ３月	なし	R6.10.25
通勤手当の不正受給	つくば市内・義務教育学校 教諭 [redacted]	減給(1/10) １月	なし	R6.11.22
交通事故 （事故相手：軽傷、救護義務違反）	神栖市内・中学校 会計年度任用職員 [redacted]	減給(1/10) １月	戒告	R6.11.22
鉄道不正乗車	常総市内・県立高等学校 教諭 [redacted]	戒告	訓告	R6.11.22

２　債務負担行為の設定について（県立学校校舎建設工事請負契約）

１　提案理由

（仮称）神栖特別支援学校の校舎建設工事については、工期が令和７年度から令和８年度までと複数年度にわたる事業となることなどから、債務負担行為を設定するもの。

２　内　容

事　項	事業内容	期　間	限度額
県立学校校舎 建設工事請負契約	（仮称）神栖特別支援学校の校舎建設に係る工事請負契約を締結する。	自 令和７年度 至 令和８年度	3,340,317千円

３　スケジュール

・令和７年２月上旬　実施設計完了
・令和７年２月～５月　校舎建設工事の入札手続
・令和７年第２回定例会　校舎建設工事の契約締結に係る議案の提案
・令和７年７月～９年３月　校舎建設工事・外構工事等
・令和９年４月　開校

４　参　考　（仮称）神栖特別支援学校整備の概要

校種	知的障害教育
児童生徒数	150人程度
通学区域	神栖市全域
計画地	神栖市須田地内
校舎構造等	延床面積：約7,400㎡ 構造：１階RC造、 ２階木造（一部RC造）



３　県立歴史館　外部プロデュース企画「なぜ恋してしまうのか？展」の開催について

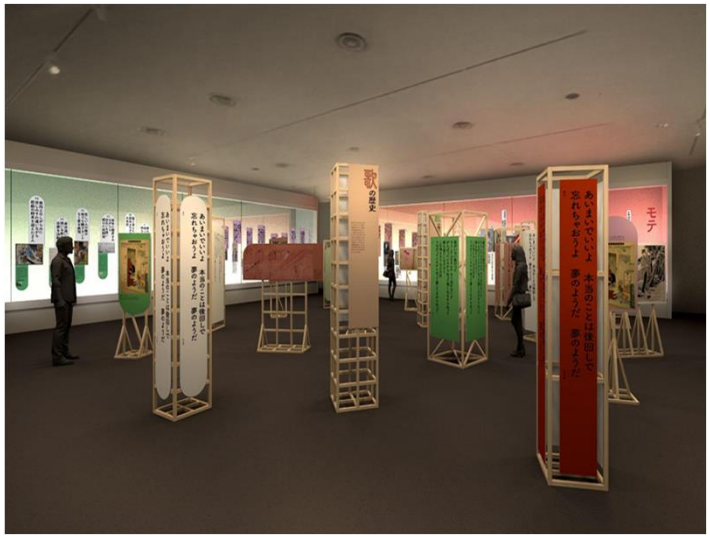
１　目的

県立歴史館は、１９７４年に開館して以来、５０年にわたり多くの県民に親しまれてきた一方、偕楽園に隣接した文化観光施設として、新たな層の誘客を図るなど、より一層の魅力向上が必要。

「恋愛」という身近なテーマから過去を学び未来を考える、外部プロデュースによる展覧会を開催。
女性や若者など新たな層の誘客を図る。

２　内容

＜展覧会名＞
過去を学び未来を考える　外部プロデュース企画
「なぜ恋してしまうのか？展」
【２０２４年１２月１４日（土）から２０２５年１月２６日（日）まで】



＜展示内容＞
◆過去の章　どんな恋愛をしてきた？
古代から現代に至るまでの恋愛の変遷を５０のエピソードで紹介
◆未来の章　２１２４年の恋愛エッセイ
１００年後の恋愛はどうなっているのだろう。６名の著名人が執筆

＜広報＞
従来のポスター・チラシ、新聞広告などに加えて、
美容やファッション、サブカル系などの編集部やライターにプレスリリース

4　令和６年度「いばらき教育の日・教育月間」の推進について

1　いばらき教育の日・教育月間の趣旨・目的

教育に対する関心と理解を深める機会として、11月1日を「いばらき教育の日」、11月を「いばらき教育月間」と設定している。教育の日を含む教育月間には、学校・家庭・地域社会が連携を図り、県民による教育に関する自主的な取り組みを促進している。

2　今年度の主な取り組み

令和６年度いばらき教育の日・教育月間シンポジウム

テーマ：探究的な学び



「いばらき教育の日」推進協力事業所等登録制度（サポートカンパニー）

登録数：258企業・団体等（傘下1,757事業所等）※R6.10時点

その他県民対象の主な取り組み（実施主体：県、市町村、学校、民間等）

子ども伝統文化フェスティバル、オープンキャンパス、家庭教育講座、スポーツフェア、あいさつ運動、防災訓練、児童生徒の職場見学、社会体験学習の受入　など

５　旧白浜少年自然の家の民間譲渡に係る再公募等について

１　経緯

令和６年３月末をもって閉所した旧白浜少年自然の家について、令和６年７月から９月にかけてプロポーザル方式による公募を実施したが、応募者がなかったため、公募要件を見直し、再度、プロポーザル方式による公募を行うもの。

２　公募型プロポーザルの概要（太枠は前回からの変更点）

譲渡対象物件	対象不動産１	土地：49,914.49㎡ 建物：管理棟、宿泊棟、体育館等	○譲渡対象物件を２つに分割 ○対象物件ごとに公募価格（最低売却価格）を設定
	対象不動産２	土地：69,306.00㎡ 建物：いろりの家、野外炊飯場等	
公募期間	令和６年12月～令和７年３月上旬を予定		
提案及び審査	事業計画、事業の推進体制、地域への配慮内容、提案価格等の項目について公募により事業者から提案を求め、利活用計画・運営能力・地域貢献等の視点で総合的に審査し、選定		
公募価格	不動産鑑定評価額を基に最低売却価格を設定し、公募価格とする予定		
選定体制	民間有識者、会計専門家、地元関係者等を構成員とした審査委員会		



３　今後のスケジュール

令和６年１２月～　　公募開始（令和７年３月上旬まで）
令和７年　３月　　審査委員会開催（優先交渉権者決定）
　　６月　　県議会第２回定例会で報告
　　７月以降　譲渡実施

【対象不動産概略図（右）】



【参考】

対象不動産１	49,914.49㎡
対象不動産２	69,306.00㎡

６　里美野外活動センター建物等の民間譲渡について

１　民間譲渡先

NPO法人　BodyProducts　代表 前嶋 幸恵
※2024年５月20日プロポーザル審査委員会により優先交渉権者として決定

２　譲渡の時期

2024年10月１日
※土地所有者である常陸太田市とNPO法人　BodyProductsの土地賃貸借契約も
　10月１日に締結

３　譲渡後の施設名

『Forest　of　THEN』（直訳：あの時の森）

Forest of THEN
BodyProducts

４　運営内容

10月１日より営業を開始。
森林浴ができる宿泊施設として運営拡大を図ると同時に、学校行事やラーケーションの場として、年代に合わせたプログラムを提供し、自然体験事業の場としてアピールしていく。

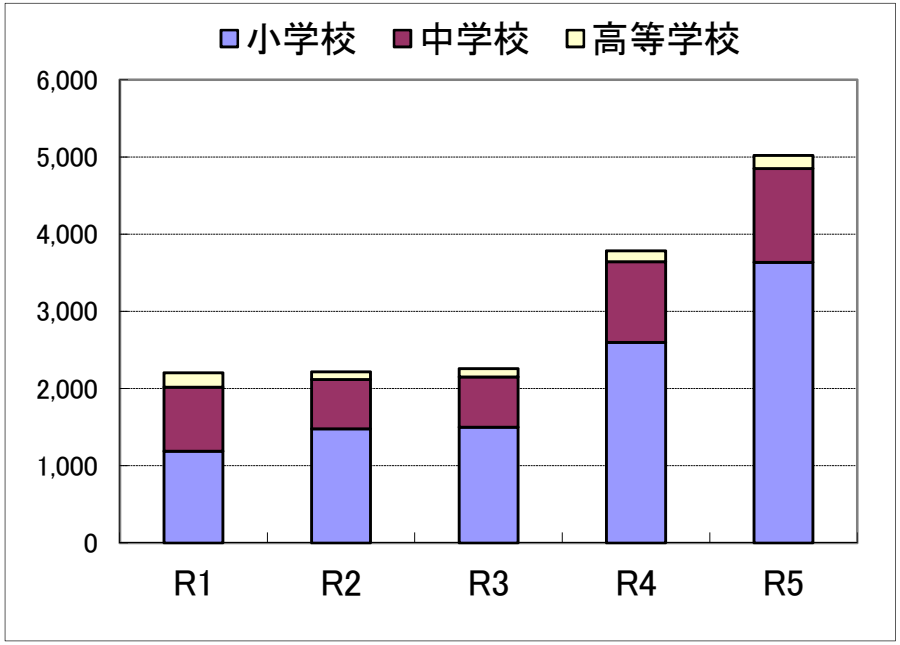
7　令和５年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査（茨城県）

１　暴力行為　（国公私立小･中･高等学校）

令和５年度発生件数

児童生徒千人当たりの発生件数は、16.1件（昨年度12.1件）

区分	小学校	中学校	高等学校	計	前年度計
対教師暴力	434	78	14	526	309
生徒間暴力	2,839	813	98	3,750	2,872
対人暴力	13	8	12	33	23
器物損壊	347	316	49	712	578
合計	3,633	1,215	173	5,021	3,782
（前年度合計）	(2,598)	(1,047)	(137)	(3,782)	



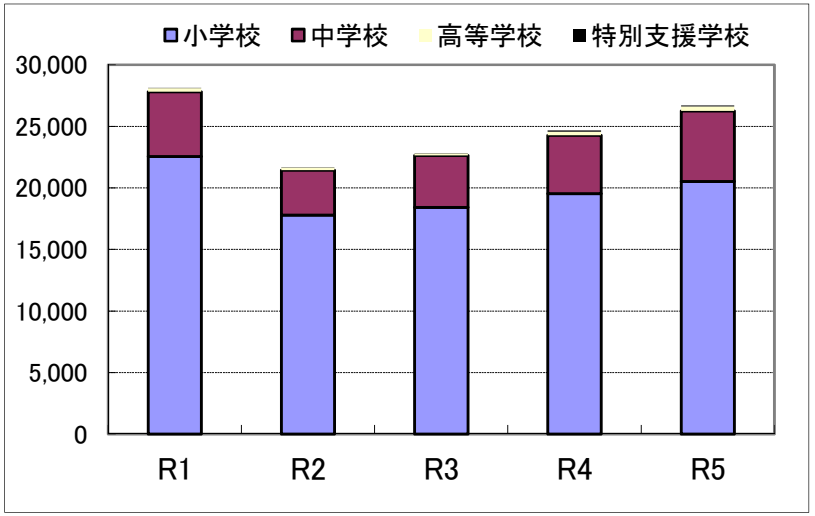
【増加の主な理由及び対応】
- 軽微な暴力行為についても把握するよう意識しており、初期の段階を見逃すことなく適切な対応をしている。
- 校内で集団生活に適応できない児童生徒が、暴力行為を繰り返してしまう事例も散見される。

7　令和５年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査（茨城県）

２ いじめ （国公私立小･中･高･特別支援学校）

令和５年度いじめ認知件数　児童生徒千人当たりの認知件数は、84.1件（昨年度77.8件）

区分	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	計	前年度計
いじめ認知件数(件)	20,512	5,731	358	74	26,675	24,650
いじめ解消率(%)	81.4	78.4	71.8	83.8	80.6	81.9



【増加の主な理由】
・いじめ防止対策推進法に基づき、アンケートや教育相談の充実などによる生徒に対する見取りの精緻化、SNS等のネット上のいじめについての積極的な認知に努めた。
・教育相談体制整備（校内オンライン相談窓口の設置：中学校100%、小学校93.9%）が進み、児童生徒が相談しやすい環境が整備されたことにより、相談件数が増加したと考えられる。
【いじめの解消等】
・認知したいじめを初期段階で組織的に対応し、解消率は80.6%で全国平均77.5%を上回っているた。

7　令和５年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査（茨城県）

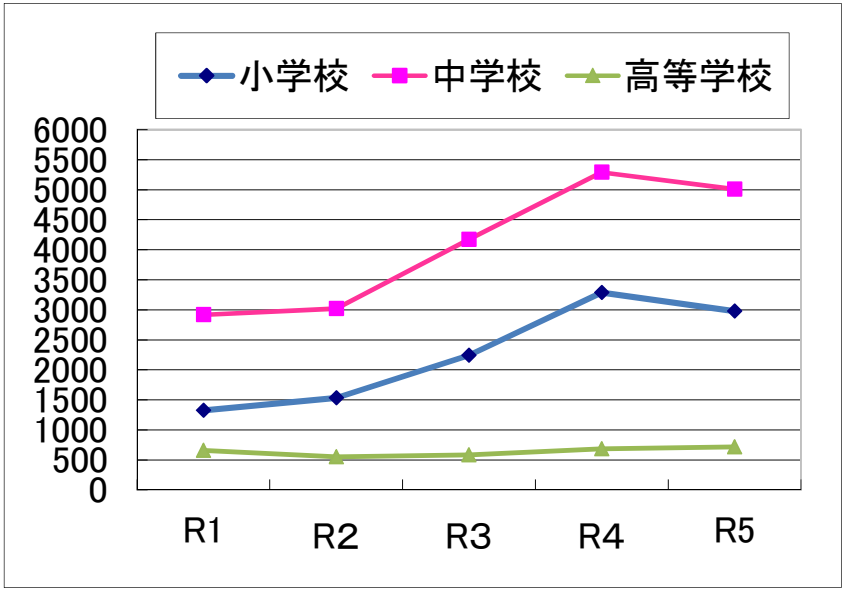
３　不登校(国公私立小・中・高等学校)　・　中途退学（高等学校）

令和５年度発生件数

児童生徒千人当たりの不登校児童生徒数　小学校21.6人（昨年度23.4人）中学校66.8人（昨年度69.6人）　高等学校10.2人（昨年度9.6人）

区分	小学校	中学校	合計
不登校児童生徒数(人)	2,978	5,009	7,987
（前年度）(人)	（3,288）	（5,289）	（8,577）
千人当たりの人数(人)	21.6	66.8	37.5
（前年度）(人)	（23.4）	（69.6）	（39.7）

区分	高等学校	前年度
不登校生徒数(人)	716	686
千人当たりの人数(人)	10.2	9.6
中途退学者(人)	1,836	1,679
中途退学率(%)	1.8	1.8



【不登校減少の主な理由】
- 県全体で、不登校児童生徒を学校内外の専門家や専門機関と早期につなげたことで、具体的な支援ができるようになり、不登校児童生徒数が減少したと考えられる。
- また、専門機関のうち、医療機関を受診したことで、心因性の病や起立性調節障害などの診断をうける児童生徒が増加したため、不登校による欠席ではなく、病気による欠席となった報告も多い。
- 校内教育支援センター（校内フリースクール）の設置が進み、新規で不登校になる生徒が減少したと考えられる。

８　令和７年度採用県立高等学校等における校長の公募選考の結果について

１　第１次選考（書類選考）

区分	エン転職	ミドルの転職	AMBI	engage	本県教員	計
応募者数	131名（10）	620名（32）	78名（14）	40名（６）	11名（０）	880名（62）
合格者数	75名（４）	441名（22）	37名（７）	17名（１）	11名（０）	581名（34）

（）は女性

２　第２次選考（録画面接）

投稿者数	378名(13)
合格者	44名(2)

３　第３次選考（オンライン面接）

受験者数	44名
合格者	７名

４　第４次選考（対面面接）

校種	計
受験者	７名
合格者	１名

※配置校は今後調整

５　実施概要

（１）配置校　７校

・併設型中高一貫教育校　５校
　（日立第一、太田第一、鹿島、下館第一、水海道一）
・中等教育学校　１校　（並木）
・高校　１校　（つくばサイエンス）

※配置できなかった学校は、 通常の人事異動により対応

（２）採用年月日　令和７年４月１日

（３）今後の予定

・３月中旬　採用前研修を実施
・３月下旬　合格者の氏名、配置先等を公表

８　令和７年度採用県立高等学校等における校長の公募選考の結果について

参考　公募校長配置対象校の現在の取組状況（特色ある取組など）

（１）中高一貫教育校

※学校名の後の（　）は中高一貫教育校設置年度

並木中等（H20）
探究活動、アクティブラーニング授業のさらなる推進

日立第一（H24）
研究・医療機関と連携した先端科学体験・講演会等

古河中等（H25） 公募副校長R6～
オンライン試験導入に向けた環境整備

太田第一（R2）
語学研修や複数ＡＬＴ活用による体験に根ざした国際教育

鉾田第一（R2） 公募校長R2～
教員志望の高校生が中学の授業を見学

鹿島（R2）
鹿島アントラーズとの地域教育連携

竜ヶ崎第一（R2） 公募校長R3～
STEAM、デジタル教育推進
トップダウン型組織改革

下館第一（R2）
筑西市と連携した探究活動



地域課題について発表（水海道第一）

水戸第一（R3） 公募校長R5～
海外大に生徒派遣
県外,予備校研修に職員派遣

土浦第一（R3） 公募校長R5～
国連,世銀,米NE大,MIT,シドニー大と連携。各種交流事業

勝田中等（R3） 公募校長R5～
カナダ留学プログラムや
海外大学推薦制度の導入

下妻第一（R4） 公募校長R6～
楽天と協力,ビッグデータ活用
探究と進路の連携，組織改革

水海道第一（R4） 公募校長R5～
海高式探究プログラム・生成AIを用いた業務効率化研修

（２）ＩＴ未来・つくばサイエンス

※学校名の後の（　）は開校年度

ＩＴ未来（R5） 公募副校長R6～
プログラミングで地域課題解決
デジタル化含む校内環境の整備

つくばサイエンス（R5）
科学技術の中高連携「サイエンストレーニングプログラム」